

====第26回全国都市緑化おかやまフェアを終えて====

キーワード

テーマ花壇、写真パネル、カラーチラシ、体験教室、横の連携、点字、五感、視線、植物ラベル、芝、引き継ぎ（報・連・相）、コンテナストッカー、育苗栽培力、維持管理力

1. はじめに

『園芸福祉』の普及啓発を主な目的として、緑化フェアに参加し、多くの学びや成果があった。情報共有化を図るため、全国の皆様にその概要を園芸福祉花壇を中心にご報告する。

後述の5の成果・反省、10の感想等は、各テーマ花壇担当者からいただいた文章を取りまとめたものである。

2. 運営組織

(1) 小委員会

NPOの中に、小委員会を設置し、園芸福祉花壇を中心に、常設展示等についても協議や情報交換をして進めた。全国都市緑化フェア岡山県実行委員会との調整は、園芸福祉花壇（担当：高松農業高校・三宅道治）、常設展示（担当：西村理事長）、体験教室（担当：武本副理事長）が中心となり取り組んだ。

(2) 拡大実行委員会

必要により、NPO役員等に入っていたいただいた拡大実行委員会を開催し、概要の決定を行った。

(3) 会期中の運営

会期中の植物等の管理や点字についてはテーマ花壇担当者、NPO会員のみならず、ボランティアの協力を得て行った。

3. 資金計画と実行委員会からの支援

NPOで約50万円の予算立てをするとともに、岡山県実行委員会から園芸福祉花壇用の植物の一部提供、園芸福祉花壇の看板、各テーマ花壇の表示、テーマ花壇の仕切りの芝張り、写真パネル設置用の台、物置などの提供をいただき感謝している。

4. 実施内容

(1) 園芸福祉花壇

岡山市が設置している円形花壇に6つのテーマ花壇を設置した。（括弧内は担当者）

- ①高齢者も楽しめる花壇（明石満壽子）
- ②視覚障害者も楽しめる花壇（中谷昌子）
- ③癒やしの庭（山本洋子、田中良子）
- ④キッズガーデン（三枝昌子）
- ⑤キッチンガーデン（横見瀬文子）
- ⑥タッチガーデン（藤原正子）



(2) 常設展示

①「写真パネル」の制作・展示

- ・岡山園芸福祉普及協会5枚
- ・岡山県立高松農業高校5枚

②「カラーチラシ」制作・配布

NPO法人日本園芸福祉普及協会のご協力ご指導を得て、岡山版のカラーチラシを制作した。



③「UDプランター」の設置（信建工業より借用）

- ・多肉植物の植栽（山下弘美氏による植栽・管理）
- ・福太郎爺さんの人形（創作屋じじばばに制作依頼）

④その他

芝人形の展示、落書き帳、資料配布（養成講座、園芸福祉セミナー）



(3) 花緑体験教室（4月26日、5月23日）



“天使からの贈り物小さなガーデン”を開催した。素焼きの鉢にトルペイントで自由に絵を描いていただき、高松農業高校の生徒さんたちが丹精こめて育てたハーブの苗を植えつけていただいた。参加費はひとり500円とし、初日は30名、2回目は好評につき定員を50名とした。

高松農業高校園芸福祉専攻生の芝人形づくり体験教室も3月に行われましたが、ストッキングを買いに走るほど大盛況でした。この日も、高校生を応援するため、NPO会員が奮闘し、感謝されました。

(4) スタッフジャンパーの制作

園芸福祉花壇の管理や、体験教室の運営の時に着用した。

(5) レンタル鉢の募金と設置

岡山県インドア・グリーン協会のご協力のもと、『花緑体験教室B』の仕切りとして、ガジュマルという樹のレンタル鉢を20鉢全期間設置し、潤いのある空間を作った。経費は募金で賄った。

5. 『園芸福祉花壇』実施上の成果と反省

(1) 成果

①横の連携

準備・実施に携わることにより、協会としての横の連携が深まり、そして、協力することの大切さを学んだ。

②作業と対話

花壇の手入れの時に、来場者との対話や説明ができ、制作意図等の説明ができて良かった。

③視線

高設花壇のため、視線の高さで花壇を楽しんでもらえた。

④点字、ユニバーサル

点字プレートを取り付けたので、健常者・障がい者ともに植物の理解促進に役立った。特に、小中学生が関心を持ってきて、点字を取り付けたその成果があった。

⑤五感で感じる花壇

- ・見て楽しむだけでなく、味わってもらおう花壇を提案できた。
- ・「投げて遊ぼう」来場者の対話のきっかけになったことが多かった。
- ・「触れていいのよ」「嗅いでいいのよ」「車椅子横付けだよ」と園芸福祉花壇にふさわしいものとなった。



⑥親しみの持てる植栽と、植物ラベル

植栽の内容が、見た目が楽しめるものを中心にしていたので、来場者に親しみを持っていただけたとともに、植物ラベルがあることで、植物をより身近に感じていただけた。そして、植物ラベルが手作りで可愛く、しかも植物名・科名が書かれていることから、興味を引いた。

⑦花壇造りの工夫

- ・花壇が机の高さなので手前は管理しやすく、テーマ花壇間の区切りの「芝」は各テーマ花壇を引き立てる効果があっただけでなく、管理作業の通路として活用でき、花壇後方の植物の管理がしやすかった。
- ・赤玉土によるマルチングは植物の背景色を統一し、3月・4月までの水不足をやわらげ、寒さ対策としても効果があった。



⑧恵まれた設置場所、人の流れ

- ・園芸福祉花壇の設置場所が、来場者の流れに沿い、良く立ち寄ってもらえた。また、円形の高設花壇であったことから、来場者にも視線を下げずに見ることができ、また、説明者にとっても立ったまま同じ高さで説明できたり、花壇を廻って説明できたりと、説明しやすい花壇でもあった。
- ・細く、狭い花壇であったが、かえて管理しやすく、植栽の管理上も自分たちの能力・実力にあったものであった。



⑨再来年

2年後は鹿児島県での開催。園芸福祉花壇は、鹿児島県の視察者の興味を引いたので、今回の学びが活かされることを期待する。

⑩植物の知識と、活かし方

テーマを持って花壇造りをしてみて、植物の持つ性質、特徴、役割があると、身をもって勉強できた。

(2) 反省

①維持管理に専念

仕方ないとは言え、園芸福祉花壇の維持にかまけてしまい、出展の目的であった『園芸福祉の普及啓発』がおろそかになった面がある。具体的には、花壇に比べ、常設展示での説明等が不十分になりがちであった。また、来場者の花壇への評価は高かったが、園芸福祉が浸透していない現状の中で、園芸福祉を花壇にして説明することは難しかった。

②指示・指導

他の担当者のテーマ花壇の手入れは、指示・指導が無ければ難しい。

③花壇に上がる管理作業

木の実がどのように投げられるのか、どのように木の実が落ちるのか、想像仕切れずにいた。そして、木の実の回収のために、花壇に上がる必要があり、ボランティアの安全確保のため、植物の傷み防止のため、会期後半は松ぼっくりのみにした。

④ボランティア当番

想像よりもNPOのメンバーが少なく感じた。

(3) その他

①関係機関との連携

今回のフェアの取り組みはNPO単独で出来たことではなく、岡山県実行委員会の、特に菅先生、川井様、森崎様等々の方々から、植物の提供、駐車場対応、コンテナストッカーの設置、植え付けや植え替え体験教室当日の運営、かん水等々、随分ご配慮いただいたことが成功に結びついた。

また、高松農業高校・園芸福祉部に、小委員会でのとりまとめ、岡山県実行委員会との連絡・調整、一部の植物の栽培、会期中の維持管理内容について指導等を受けた。これにより、NPOの負担軽減、経費削減、他の担当者のテーマ花壇の維持管理作業もしやすくなった。

②協力・指導いただいた組織・事業所

- ・点字：岡山市社会福祉協議会 点字サークル「てん」
- ・花壇制作：株式会社トシプランニング
- ・植物ラベル：La Shu-an（創作雑貨店）、及び岡山大学医学部園芸ボランティア

③維持管理作業を行いやすくする工夫

- ・ボランティアの募集と日程調整
- ・園芸福祉ボランティアへの説明会と説明資料
- ・作業内容の引き継ぎ
引き継ぎノートへの記入と、電子メールや電話での報告・連絡
- ・コンテナストッカーの設置
維持・管理作業に必要な資材等の保管

6. その他の成果と反省

常設展示は、花と緑のテーマ館2階、ピュースポットの一角を提供いただいた。全期間展示できたことは幸運であった。

初級園芸福祉士養成講座の資料は速いペースで無くなり、補充が忙しかったが、強いて言えば、来場者の人の流れはNPOの常設展示までは届かず、以外と目立たなかった。常設展示の66日間、案内・説明役の人員を配置するだけの余力が無かったので、仕方ないと考えている。休日だけでも常設展示に案内・説明役を配置できたらなお良かった。

7. 今回のフェアで学んだこと

(1) 各自の責任と横の連携

一つの事業を成し遂げるためには各自が責任を果たし、その上で余裕のある人は他の人を応援するという横の連携のもとで進めることの大切さを学んだ。

(2) 目標に向かって

何度も会合を重ね、みんなで意識を統一し、一つの目標に向かってみんなが一つになることの大切さが分かった。

(3) 参画したことによる自信

園芸福祉でフェアという大きな事業に参画でき、初級園芸福祉士としての自信につながった。

(4) 出会い

花壇の維持管理作業等を通じて、多くの方々との出会いがあり、同じものを志す仲間の広がりを感じた。

(仲間づくり、ネットワークの大切さ)

(5) 学び

植物名・科名をたくさん覚えることができたので、他の場面でその植物の知識が活かそうである。

8. 今後、園芸福祉で取り組みたいこと

- ・フェアで学んだことや出会いを大切に、今後も情報交換をしながら地域での園芸福祉活動を充実させたい。
- ・園芸福祉の取り組みを知ってもらえるようなイベント
- ・緑化フェアの取り組みを伝える事例発表
- ・知り合いも増えたので、今後の行事に誘い合って参加したい。
- ・医学部の園芸活動に、今回の経験を生かしたい。
- ・雑草が多くなり景観が悪くなっている場所等を生かして、輪を広げていきたい。

9. フェア実施による園芸福祉の普及啓発効果

- ・維持管理作業の時に、いろいろ質問され、かなり興味を持たれた。
- ・園芸福祉花壇、写真パネル、配布資料、体験教室等により、かなり印象づけることができたのではないかな。
- ・積極的に声かけを行い、「園芸福祉士」をPRすることができた。数は少なくとも、見えるもの、見えないが育っているものもある。
- ・園芸の楽しさ、植物による効果、福祉にも役立つということを理解してもらえたと思う。
- ・来場者で、リピーターの方数名に、「毎回、ここの花壇を楽しみにしているのよ」と、声をかけてくださる方がおられた。
- ・園芸福祉花壇は「園芸福祉」という言葉をアピールするには良かったが、園芸福祉の内容を理解してもらうのは、少々難しかった。

10. 感想

- ・二度と出会えないとも言える緑化フェアに参加できたことはこの上ない喜びであり、関係者の協力のもと、前向きに参加できたと自負している。
- ・半年以上に前に植える植物を選び、自分で寒い時期に栽培(育苗)すること、又は調達することは困難なことである。そして、霜の心配な季節の変わり目、3月中旬に花壇に植え付け、さらにかん水、霜・寒さ対策、花がら摘みなど維持管理することは大変なことであった。
- ・超密植で、季節の変わり目という難しい花壇をきれいに維持できたのは多くのボランティア活動のお陰である。特に、毎日のように維持管理に通われた方のお力が大きかった。
- ・岡山県のフェア実行委員会に提出する必要があるということで、仕方ないとは言え、植物の選定、デザイン画の作成など少々苦しかった。季節の変わり目でもあり、その時にあるものを植えるという融通も欲しかった。
- ・「花や野菜を育てて、みんなで幸せになろう」ということを実感した緑化フェアであった。

11. 終わりにあたり

何をやろうとしても、鍵となるものは、思い(情熱)、企画力、実行力がベースとなる。その実行のために時間を割くことは容易なことではない。フェアへの参加は、実務遂行能力が試された、昨年7月からの約半年間であった。通常の園芸福祉に関わる業務も、人手無くして進むことはない。

その人手は、初級園芸福祉士養成講座における人材(人財)育成がベースとなり、確保されるであろうと、考える。そして、この講座受講後も果敢に研修に取り組む人が必要である。

このところ、養成講座も全国的に開催が半減し、岡山でも平成20年度は新聞にも掲載していただいたにも関わらず、一般の方は25名しか集まらなかった。そのため、緑化フェアで養成講座受講者の確保はできないかと、少し期待もしたが、現実には客層の違いがあった。養成講座の受講者を確保するためには、“園芸植物を社会のために活かしたい”と思っている方に、園芸福祉の思いを届けるしかない、結論づけるものである。

(文責：NPO 法人岡山園芸福祉普及協会顧問、高松農業高校教諭：三宅道治)